

第2版の序

ほとんどの養成校では、入学直後の学生に対して理学療法概論の講義を実施する。学生は理学療法士のイメージをある程度もっているかもしれないが、生理学、解剖学、運動学などの医学的知識をほとんどもっていない高校生に近い状態である。このような学生を対象に理学療法概論を講義していくとき、高度な医学的知識を必要とする講義内容に偏ることは望ましくない。そこで、本著では「理学療法事始め」として教育すべき内容、方法は何かということを中心に検討し、整理し、特に次の8点については特徴的内容を包含している。

- ①現状も含めた本邦、諸外国の理学療法史に関する解説
- ②本邦の経済・財政状況が理学療法や理学療法士に与える影響
- ③本邦の理学療法・理学療法士の課題
- ④ICIDH（国際障害分類）とICF（国際生活機能分類）に関する解説
- ⑤評価に関する解説
- ⑥理学療法士に求められる要素、プロフェッションとプロフェッショナリズム、倫理、志などに関する古典的文献を含めた解説
- ⑦日本人のQOL、意思決定、精神等に影響を与えている神道、仏教、儒教、武士道などの基本的解説
- ⑧障害受容に関する解説

2017年の第1版発行から学生教育や臨床に関する制度やしぐみに大きな変化があったが、最新情報に書き換え、さらに、課題・動画教材を第1版より多く追加し、記憶・理解促進が可能となるように配慮した。動画教材は、理学療法対象者をみたことのない学生が実臨床をイメージでき、本科目だけでなく、これから学ぶすべての科目の学びを促進できる内容と自負している。

また、受動的講義を避けるために多くの課題を示しており、これによって学生同士で議論し、授業への主体的参加、コミュニケーション能力向上が期待できると考えている。

動画撮影では、すべての症例の皆さまに口答・文書で説明して同意を得たが、理学療法士の学生教育に使用すると伝えると、全員に快諾していただくことができた。多くの方々から、「こんな状態になっても、まだ学生さんのお役に立てるのであれば本当に嬉しいです」と仰っていただけたことがとても印象に残っている。

参加していただきましたすべての症例の皆さまにこの場をお借りして心からお礼、感謝申し上げます。

本著によって、理学療法学や理学療法士に対する興味が向上し、学生のモチベーションアップを引き起こすことができれば幸いです。

2024年11月

畿央大学健康科学部理学療法学科
庄本康治